

越前町議会・令和5年9月定例会一般質問【木村 繁議員】

(令和5年9月7日 午前10時15分 開始)

○13番(木村 繁君) 夏の甲子園、慶応高校の107年ぶりの制覇で幕を下ろしました。決勝を戦った慶応、森林監督、「エンジョイ・ベースボール」をスローガンに丸刈りをやめ、自由な雰囲気を楽しみ、あの清原さんの息子さんを代打の切り札、そしてご自身の息子さんはアルプスのスタンドで応援と、私情を入れない勝ちにこだわった優勝、名監督でした。私は思います。

一方、敗れた仙台育英、須江監督、この方は昨年、「青春ってすごく密なので」、流行語大賞の一つとして、そして今回も名言を残されています。本人の座右の銘ということですが、「人生は敗者復活戦」。私なんか家庭に帰りますと、毎日、毎日がかみさんに対して敗者復活戦の日々を送っております。どうか10代、20代、30代の皆さん、我慢をして諦めないで、人生は敗者復活戦です。自分の夢をかなえていただきたいと思います。

さらに、あの慶応高校に敗れましたが、北陸高校の野球部の健闘にも拍手を送りたいと思います。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

初めに、浸水軽減、「田んぼダム」についてお伺いをいたします。

相次ぐ被害を受け、水田に水をためて河川の急な増水を抑える治水手段、田んぼダムが全国に広がっています。

農水省は、2025年までに農家の協力を得て10万ヘクタール以上の確保を目指しており、県内では2022年度末時点で1,855ヘクタールに達したそうです。

田んぼダムは様々な治水手段を組み合わせる流域治水の一つで、水田の貯水量を増やす調整板が必要ですが、ダムや堤防の新築と比べて低コストで設置できることが利点であります。発祥は、全国一の米の産地、新潟県で昔から洪水に悩まされてきた同県村上市の農家のほうで初めて導入され、県内の想定実地では浸水面積を6割減らす効果があったそうです。

福井県内では、4人の方が亡くなるなどの被害があった2004年の福井豪雨を契機に注目され、2021年度時点の導入面積が1,656ヘクタールで、2020年度末にさらに199ヘクタール増えたそうです。

県では、調整板の設置費用に係る負担をゼロにするための補助金の事業費として、今年度当初予算に約5,000万円を計上し、農家の取組みを後押しするとともに、新たに240ヘクタールの導入を目指すとのことであります。

また、農水省では、2021年度にお隣の鯖江市や兵庫県のたつの市など、8地域で実証実験を行い、50年に一度の大雨でも浸水面積を最大で3割近く減らせる、稲作には影響ないとする結果をまとめたそうです。

一方で、さらなる普及には流域農家の理解が第一、補助金により調整板の設置コストが抑えられたとしても、農家にとって導入そのものに直接的なメリットはなく、田んぼの水位が上がることで米の品質、収量が下がらないか懸念をする声もあるそうです。

そこで、県内における田んぼダムの実態並びに当町における方向性、推進をしていく場合の方策や提言について、町長の所見をお伺いいたします。

次に、NHK「のど自慢」の誘致について、お伺いをいたします。

のど自慢は、昭和22年に放送が開始されて以来、現在に至るNHKの長寿番組であり、看板番組の一つであることは皆さんご承知のとおりのことと思います。

番組は、全国津々浦々、毎回違うところで行われております。開催地の決定は実は立候補制で、まずNHKの各地方局に市町村からの応募があり、そこから会場のキャパシティやバンドのセッティングが十分可能な舞台のスペースなどを考慮した上で決定されているようであります。

福井県では、敦賀市文化センターを会場に本年10月1日、五木ひろしさんと杜このみさんをゲストに迎え、開催をされます。現時点では、2024年3月31日に栃木県宇都宮市での開催までがスケジュールとして公開をされています。ちなみに開催当日に出演できる人は予選を勝ち抜いた20組、その予選には平均250組の応募があり、倍率は1.2倍という熾烈なものだそうであります。

そこで、合併20周年記念事業において、我が町の知名度並びに認知度向上も兼ねたイベントとして、当町でののど自慢開催について、町長の所見をお伺いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、木村議員のご質問にお答えいたします。

初めに、県内における田んぼダムの実態についてですが、令和4年度末までの県全体の取組面積は1,855ヘクタールで、その9割近くが鯖江市での取組みとなっています。

鯖江市では、平成24年度から田んぼの排水ますに排水管より小さい穴の調整板を設置し、大雨の際には田んぼで一時的に雨水を貯留し、河川の増水を緩やかにすることにより洪水被害の軽減につながっていると聞いています。

また、鯖江市のほか、県内5市町で調整板の設置など、県の助成制度を活用しながら進めていると伺っております。

次に、当町における方向性、推進していく場合の方策や展望についてですが、現在は和田川の上流域にある防災ダムや和田川と天王川の下流域にある排水機場により治水対策を実施しています。

治水対策で最も有効的な対策は河川改修であり、県の協力を得ながら天王川の改修を進めていますが、河川改修には莫大な費用と長期にわたる期間が必要となります。近年は、短時間に多量の雨が降るなど想定以上の降雨状況もある中で、田んぼダムを含めた様々な治水対策を検討していく必要があります。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、田んぼダムは米の品質や収量などへの影響が懸念されることから、県内市町の取組結果を踏まえることが大切です。その上で、関係機関の協力を得ながら、和田川の上流域など、地形的に効果が見込める地域の所有者や耕作者へ田んぼダムの事例や効果を紹介するなど、ご理解と意識醸成を図り、地域全体での取組みにつなげていきたいと考えています。

次に、NHK「のど自慢」の誘致について、お答えいたします。

のど自慢をはじめとしたNHKの公開番組は、市区町村制施行記念や文化施設等の落成などを捉え、自治体等からの要請を基にNHKが計画し、自治体との共同開催により実施されます。

県内では、令和2年度に越前市、令和3年度に高浜町で開催され、議員もご紹介のとおり、本年10月1日には来年春の北陸新幹線敦賀開業を記念し、敦賀市において開催されます。

のど自慢の開催に当たりましては、毎年希望する自治体から実施申請を受け、N

HKの地方局担当者が会場の下見調査等を実施し、全国で調整しながら開催が決定されます。

会場の条件の目安としましては、座席数が800席以上、ゲスト控室や審査員室、出場者控室など、大小合わせて8部屋が同一敷地内に確保できることなどの条件があります。また、学校体育館は原則使用しないことや、その他の体育館で実施する場合は、空調管理や耐震化が必要となっています。

ご承知のとおり、令和7年2月1日、越前町は合併20周年を迎えます。議員ご提案の合併20周年に向けた事業については、現時点ではお示しできるような計画は持っておりませんが、今後、記念事業の実施を検討していく中で、NHKのど自慢の誘致も含め協議してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 木村 繁君。

○13番（木村 繁君） 的確なご答弁をいただきました。お礼を申し上げます。

2番目のNHKのど自慢については、いろいろな制約があることが分かりました。800席以上と申しますと、我が町ではお隣のカメラも無理ですし、たしか陶芸村の文化交流会館はこの制約の800には足りない。そして、ゲスト、司会者か何か分かりませんが、ゲストの方々の待機場所がなげりゃあかんということで、非常にハードルが高いというのはよく分かりました。

コロナでここ3、4年間、町民には閉塞感が漂っていました。本年5月から5類に変更後は日常が戻ってまいりました。合併20周年、町民が喜び、楽しむことができる記念事業を望みたいというふうに思いますし、町長のご答弁の中に、のど自慢の誘致も含め協議していくということでございますので、でき得ればその制約、町長、理事者方の政治的なことも含めて、ぜひNHKさんともこういう20周年だと、非常にめでたい記念事業であるので、やや制約に抵抗するかもしれませんが、ぜひ当町でのど自慢をお願いしたいというふうな、町長が要望すれば、私は聞いていただけるんでないかなという気がしますので、町長の政治的な手腕に期待を申し上げたいというふうに思います。

そして、最初の田んぼダムについてですけれども、今、ご答弁の中に、鯖江市と県内で5つの市町があるというご答弁をいただきましたが、もしここでお分かりになるのであれば教えていただきたいのと、この田んぼダムについては、先ほど述べさせていただいたとおり、また町長の答弁にもあったとおり、治水手段の国・県も非常に注目をしている事業であります。したがって、鯖江市が一番大きい面積でございますけれども、その鯖江市の実例をぜひ参考にしながら、我が町にも活用できるのなら流域の方々とのご協議を十二分に重ねていただいて、治水手段の一つの事業としてぜひ進めていっていただきたいなというふうに思います。

国の農水省の担当者は、田んぼダムだけでは洪水を防げるわけではないが、大雨時は川の水位を少しでも下げる努力の積み重ねが大切になる。農家の理解を得て普及させたいというふうに言っておられますので、ぜひ繰り返しになりますが、我が町も治水の手段の一つとして、今後考えていっていただきたいなというふうに思います。

先ほど申し上げましたとおり、鯖江市以外の5市町が分かりましたら、町長、教えていただきたいと思っておりますし、分からなければ後日で結構でございます。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） お答えいたします。

鯖江市のほかに実施していますのは、福井市、大野市、越前市、おおい町、若狭

町の5市町です。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 木村 繁君。

○13番（木村 繁君） ありがとうございました。

私の一般質問を終わらせていただきます。

（午前10時37分終了）